

第二十回句会 俳句

【高点句】

- ☆九十翁面柔らかに木の芽和 〔千恵〕
☆想い出も共に出し入れ更衣 〔青蛙〕
☆山並に白き雲刷き夏めける 〔眞澄〕
☆夏山や空果てしなく雲を敷く 〔茂〕
☆田植終え落暉眺むる長湯かな 〔茂〕

【各自一句】

- ・夏めきて図書館の窓葉擦れの音 〔撫子〕
・セーラーの白襟眩し更衣 〔奈美〕
・自転車の少年手放し若葉冷 〔静〕
・駆け抜けし夏めく櫛並木かな 〔茂〕
・枕花母手づからのフリージア 〔眞澄〕
・ふつくらと今開きそう白牡丹 〔一馬〕
・山に満つみどりきみどり夏めいて 〔青蛙〕
・玉川の流れる影や夏きざす 〔莫院〕
・夏めくや駅に歩道に白溢る 〔安津子〕
・夏めくや満ちてきたりし潟の潮 〔きさ〕
・花の下別れて集ひし半世紀 〔童心〕
・風吹けば万の雛罌粟（こくりこ）囁きぬ 〔明美〕
・夏めけるボール蹴る児らみな弾み 〔千恵〕

*以上、39句（3句ずつ13名）より、選句は13名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（同点の句がある場合は、第三位の句迄）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）